

理論懇ニュース 2022年第2号

2022年9月21日
発行：理論天文学宇宙物理学懇談会事務局
(名大物理・横山修一郎)

*議事録のため録画します。

理論天文学宇宙物理学懇談会 報告会

2022年9月10日(物理学会)/9月16日(天文学会)

@Zoom

- 事務局より（会計報告など）
- 天文台からの報告
- 基研からの報告
- **NAOJ科学戦略委員会報告**（天文学会報告会においてのみ）
- 事務局ローテーション確認
- 議題 なし

現運営委員 (2021年12月-)

- 2022年11月末まで

守屋 堯 (国立天文台)
馬場 一晴 (福島大)
井上 芳幸 (大阪大)
富田 賢吾 (東北大天文)
仏坂 健太 (東大ビッグバン)

- 2023年11月末まで

井上 剛志 (甲南大) **副委員長**
小林 努 (立教大) **委員長**
諏訪 雄大 (東大総文)
富永 望 (国立天文台)
成子 篤 (京大基研)

横山修一郎(名大KMI) 事務局長 (2021年10月-2022年9月末)

理論懇事務局より

会計報告

2021年10月より事務局（名大物理）

1. 会計報告

2021年度会計：2021年10月1日～2022年9月1日

収入	4,628,975 円（前年度からの繰越し） 102,750 円（会費納入のべ52名）
支出	10,081 円（シンポジウム若手賞賞状代など） 5,612 円（レンタルサーバ使用料+振込手数料） 4,422 円（レンタルサーバドメイン使用料+振込手数料）
計	4,711,610 円

残高を減らしていくため、理論懇シンポ旅費補助・学生懇親会補助を拡充することを引き続き継続することが2019年総会で承認。

会員数など

2. 会員数：516名（2022年9月1日現在）

2021年度（2022年9月1日まで） 新規入会 34名 退会 2名

会費滞納者数（前年度までの累積滞納年数）

5年以上滞納	44名	（2020,2021年シンポがオンラインだったせい?? → 督促）
4年分滞納	33名	
3年分滞納	16名	

海外在住中の納入猶予；（理論懇ホームページ「会費納入について」）

海外在住中は会費納入が困難なことから、申請があれば納入猶予を認めます。

ただし免除にはなりません（2010年度総会）。申請は年度毎に事務局まで申請して下さい。

納入猶予制度は海外からの振込が困難である方のための制度です。

よろしくお願いたします

「日本における天文学・宇宙物理学の理論研究」について

- 前は2019年に発行。次回は2022年。
- PDF版存続の要望とwebベースの簡易版だけでよいという意見がある。
- Webベースの簡易版作成のためのシステムを柳さん(名大)が作ってくれました。PDFも自動生成。[柳さんによる解説・デモンストレーション]
- 2022年はこれを使わせてもらい、web簡易版の使い勝手等を試験します。詳細は運営委員で検討中。

[承認された]

2021年12月に行われた理論天文学宇宙物理学懇談会総会
(理論懇シンポジウム内で開催) 議事録より。

システム管理は事務局が行う

「日本における天文学・宇宙物理学の理論研究」について

作成方法； (理論懇メーリングリストでもアナウンスいたします)

1. google formにアクセス

<https://forms.gle/un4KNdVFBZ52CDsU7>

日本における天文学・宇宙物理学の理論的研究：投稿フォーム

研究室ID
https://docs.google.com/spreadsheets/d/e/2PACX-1vSNEuZ5tvDRf8ku0YYgC8IWYMs3T07a_q7N42BqsXpl9aGyV-UwSrqXYHf_Xo2-nnA9fBO112qSjU-/pubhtml?gid=1210607872&single=true

rironkon.astrocosmophys@gmail.com (共有なし)
アカウントを切り替える

id番号
回答を入力

機関名
回答を入力

2. 各々の研究室Idを確認

3. idを入力

4. 機関名、研究室名、文責、構成メンバー、研究概要、教育、研究室web pageへのリンク、といった項目があるので、それぞれに入力、送信

「日本における天文学・宇宙物理学の理論研究」について

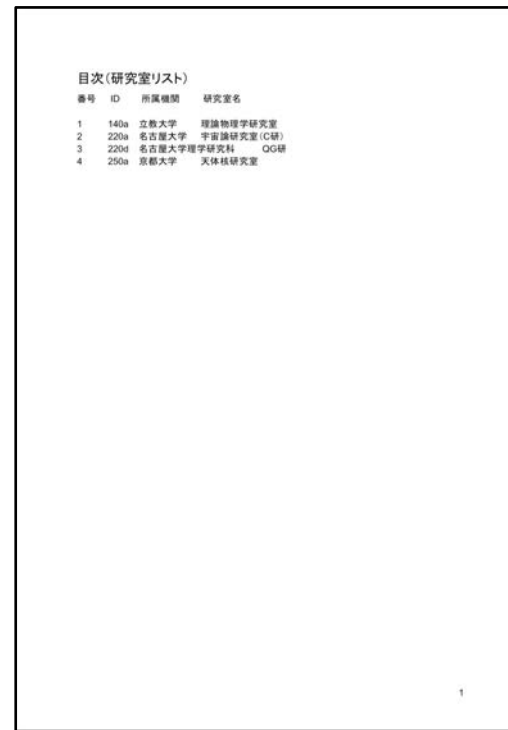
作成方法； (理論懇メーリングリストでもアナウンスいたします)

5. 自動でpdfファイルが更新。以下のリンクからダウンロード可能

https://docs.google.com/document/d/1CYTJwhS4XbfBM6uF_4tPJhO7iHPV2rE-0pGMxIS0Aiw/export?format=pdf



表紙



目次ページ

「日本における天文学・宇宙物理学の理論研究」について

今年の理論懇シンポジウムをめぐり、冊子URLを理論懇ホームページ内の「日本における天文学・宇宙物理学の理論的研究」という場所で公開。
入力お願いいたします。

**昨日9月15日より、
理論懇HP会員専用ページにおいて
上記の簡単な説明ファイルの
リンク先を公開
http://rironkon.jp/doc/nihon_edit.pdf**

理論懇会員専用ページ

- [名簿](#) (事務局で随時更新)
- [名簿の訂正はこちら](#)
- [会費支払状況\(50音順\)](#) (事務局で随時更新)
(※ 名簿、会費支払状況がうまく表示されない場合は、[こちらをご参照下さい](#))
- [AAPPS提出用の物理学会員名簿](#)
- [選挙関連資料](#)
- [APCTP日本委員会委員について](#) (2021年12月に追加)
- [国立天文台各種委員について](#) (2022年5月に追加)
- [「日本における天文学・宇宙物理学の理論的研究」原稿作成に関して](#) (2022年9月に追加)

[理論懇のホームページへ](#)

紹介文章作成過程において何かございましたら、事務局までご連絡ください

rironkon_jimu_at_rironkon.jp

ご協力よろしくお願いいたします。

国立天文台報告

天文台全体に関わること

- 特になし
- 執行部
 - [台長]常田佐久、[副台長](総務)吉田道利、(財務)齋藤正雄、[技術主幹]鵜澤佳徳、[研究連携主幹]本原顕太郎

科学研究部・天文シミュレーション
プロジェクトに関わること

人事公募

- 科学研究部（天文台内の規定で着任日までは公式には未公表）
 - 教授（1名）：審査中
 - 助教（1名）：審査中
 - 准教授（若干名）：Behroozi, Peter Spalding (Arizona University, クロアポ)
 - 研究員（時間軸 1名）：Jiang, Jian (Kavli IPMU)
 - 研究員（系外惑星 1名）：未公表
 - 科研費研究員（大内）：菊田 智史 (筑波大)
- CfCA
 - 研究支援員：未公表
 - 特任研究員：出口 真輔 (CfCA研究支援員)
 - 研究員(富岳)：野沢貴也 (科学研究部)
- 全台
 - 天文台フェロー（去年度募集）：千秋元（東北大学）
 - プロジェクト研究員（去年度募集）：なし

その他の人事異動（転入）

- 科学研究部
 - 岩田悠平（茨城大学）
 - 奥谷彩香（東工大）
 - Totorica, Samuel (プリンストン大)
- CfCA
 - Zsolt Keszthelyi (University of Amsterdam)

人事異動（転出）

- 科学研究部
 - 鈴木 昭宏（東大RESCEU）
 - 佐野 栄俊（岐阜大）
 - 塚越 崇（足利大）
 - 野沢貴也（CfCA）
 - 大神隆幸（一般企業）
 - 荒川創太（JAMSTEC）
 - 植田高啓（ドイツ・マックスプランク研究所）
 - Luo, Yudong（北京大学物理学院）
- CfCA
 - 石川将吾（京大基研）

人員構成 – 科学研究部 (*はCfCA併任)

- 教授
 - 川邊、野村、大内、生駒、富永*
- 准教授
 - 中村、藤井、町田*
- 特任准教授
 - Behroozi
- 助教
 - 浜名、片岡、守屋*、森野、原田、Dainotti
- フェロー、特任助教、PD
 - 杉山、谷口、長倉、Arzoumanian、千秋、中島、古家、高橋、伊藤、
藤(祐)、小林、Burns、岩田、Jiang、菊田、Totorica、鵜山、奥
谷、松下

人員構成 – CfCA (*は科学研究部併任)

- [教授] 小久保*、[准教授] 滝脇*、[講師] 伊藤(孝)、[助教] 岩崎*、
[特任専門員]: 波々伯部、福士、[特任研究員] 出口、瀧、野沢、松本、
[研究支援員]: 加納

共同利用

- 2022年度滞在型共同研究
 - 第1回募集締切：2022年1月21日（金） 17時（日本標準時）
 - 第2回募集締切：2022年6月24日（金） 17時（日本標準時）
 - 第3回募集締切：2022年9月22日（木） 17時（日本標準時）
- 2022年度研究集会
 - 第1回募集期間：2022年1月21日（金） 17時（日本標準時）
 - 第2回募集期間：2022年6月24日（金） 17時（日本標準時）
- 2022年度NAOJシンポジウム
 - 2022年9月22日（木） 17時（日本標準時）
- 2022年度国内客員研究員
 - 2022年9月22日（木） 17時（日本標準時）
- 2022年度外国人客員
 - 2022年9月22日（木） 17時（日本標準時）
- **サバティカル研究者の受入れ（随時）**

計算基礎科学連携拠点

- 富岳成果創出加速プログラム

計算宇宙惑星（宇宙の構造形成と進化から惑星表層環境変動までの統一的描像の構築）

- **サブ課題B** 星形成と惑星形成をつなぐ 統一的描像の構築

小久保，岩崎が参加。

- 機関：東北大学，国立天文台，東工大，岡山大

- **サブ課題C** BHと超新星爆発における 高エネルギー天体現象の解明

滝脇、町田が参加

- 機関：筑波大学，千葉大学，早稲田大学，国立天文台，沼津高専

2022/06/28 計算資源利用に関する課題内ワークショップ（第4回）

2022/07/01 高性能計算物理勉強会(第14回)

2022/09/16 高性能計算物理勉強会(第15回)

CfCA 計算機共同利用等

- 2022年度 CfCA 共同利用
 - 2022年度利用分のXC-S, XC-A, XC-B, XC-MDの利用申請は終了
 - 参考
 - XC50のうちXC-S, XC-A, XC-B, XC-MD : 年に2度の利用申請機会があり。2度 = [12月末から1月にかけて]及び[6月末から7月にかけて]。詳しくはウェブページ参照。
 - XC-Trial : 随時の申請を受け付けています。

2024年スパコンリプレイス

2024年4月CfCAのスパコンXC50のリプレイスを予定している。どのCPUを採用するのか？GPUをある割合で導入するのか？等を利用者や科学諮問委員、仕様策定委員と話し合っていく。

現状の予定は以下。昨今の半導体の品薄を鑑み、全体的に時期を遅らせる可能性もある。

2022/10/12 スパコンリプレイスに向けた仕様検討会

2022/11-12 リプレイスのためのユーザーズミーティング

2022/01 仕様案確定

2023/01 成果報告のためのユーザーズミーティング

2023/07 入札

2023/10 開札

2024/4-5 新スパコン稼働

基研報告

京都大学基礎物理学研究所報告



日本物理学会2022年秋季大会
オンライン

2022年9月10日

理論天文学宇宙物理学懇談会報告会

1. 人事

■ 所員人事

<着任>

- 中田 芳史 (量子情報、特定准教授) 8.1
東大工学研究科付属光量子科学研究センター助教より
- 北澤 正清 (原子核、講師) 8.1 阪大理学研究科助教より
- 大屋 瑤子 (宇宙、講師) 10.1 東大理学系研究科助教より
- 青木 勝輝 (宇宙、特定助教) 7.1 基研特任助教より
- 田財 里奈 (物性、助教) 10.1 名大理学研究科特任助教より
- 花井 亮 (物性、助教) 10.16
APCTP Junior Research Group Leader より

<異動>

- 杉本 茂樹 (素粒子、教授) 6.1 京大理学研究科教授へ
後任教授の着任まで学内併任

<選考中、9月下旬決定予定>

素粒子論教授

物理学（理論、ただし境界領域や新領域も含む）助教

■ 基研特任助教（研究員、10.1～）

嶼田 健悟（素粒子、科研費）

■ 研究員

NANDY, Pratik（素粒子、科研費、9.1～）

HARPER, Jonathan Edward（素粒子、科研費、7.16～）

GHIM, Dongwook（素粒子、受託、9.1～）

渡辺 展正（原子核、科研費、9.1～）

MOLLABASHI, Ali（素粒子、寄附金、7.16～）

■ 外国人客員教授（2022～2023年度）

2022.8.16～2023.1.15

SENOVILLA, José María Martín

（University of the Basque Country : 宇）

2022.12.1～2023.2.28

COLÒ, Gianluca （University of Milano : 核）

2022.12月以降調整中

VAN WIJLAND, Frederic （University Paris Diderot : 物性）

2023年度

CARDOSO, Vitor （Instituto Superior Técnico : 宇）

HEITGER, Jochen

（Westfälische Wilhelms-Universität Münster : 素）

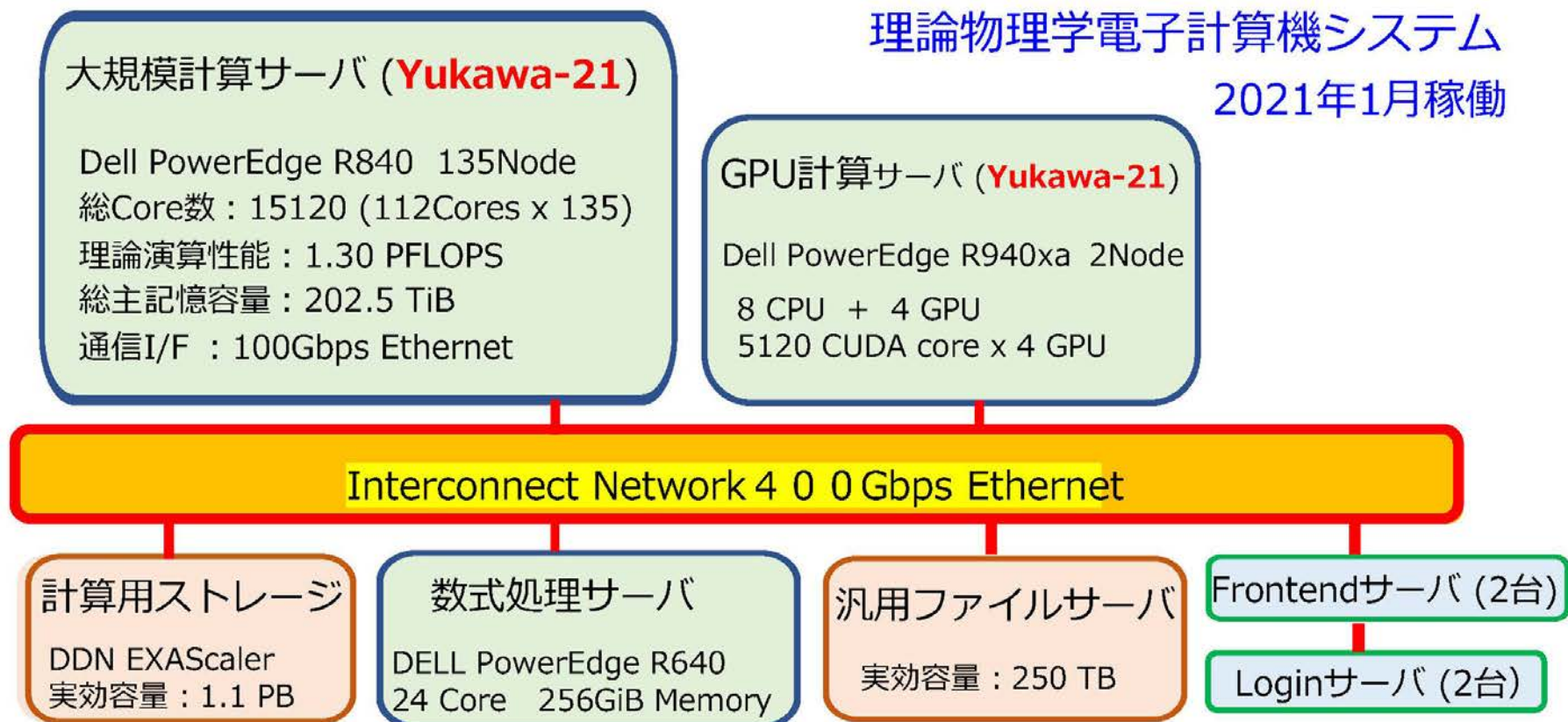
SCHNYDER, Andreas P.

（Max Planck Institut for Solid State Research : 物）

2. 計算機システム

理論物理学電子計算機システム

2021年1月稼働



- ・ 国内機関に所属する理論物理学研究者、一時的に海外の研究機関に所属する日本人若手研究者に無料提供。
- ・ 5年間の総レンタル料は、約4.7億円。京大の計算機予算は年3%削減。
- ・ 電気代の高騰を受け、共同利用運営委員会の承認を得て7ラックのうち1ラックを試験停止中。

3. コロナ禍対応

- ▶ **所内の活動ガイドラインを策定**

- ▶ **オンライン環境の整備を継続中**

- ▶ **国際コロキウム（オンライン）**

コロナ禍での国際交流として海外の著名研究者によるオンライン国際コロキウムを開始・動画配信。3か月に1回。

- ▶ **新ビジター制度**

コロナ禍によって減っている研究交流の機会を提供。2022年度は重力量子情報研究センターの事業として実施中。上限3か月以内の滞在をサポート。

- ▶ **共同利用事業**

共同利用暫定ルールを策定し、研究会運営や予算執行に対応。

コロナ禍対応（続き）

▶ 研究計画（研究会）

- ハイブリッド開催、オンライン開催の計画も申請可。
- 感染状況に応じて延期や、会場開催からオンライン・ハイブリッド開催への変更が可能。
- 基研会場の利用条件：収容上限は**定員の 2/3**。
- ポスターセッション：枚数限定でオンサイトも可能。
- WEB会議システムのライセンスを提供。
- 感染症対策ガイドライン・チェックシート
参加者への対応や会場利用時の注意点、体調不良者への対応を世話人・参加者向けガイドラインとして策定。
- 国際モレキュール型プログラム
コア外国人研究者をオンライン参加とする計画も可能₂₉

コロナ禍対応（続き）

- **国内モレキュール型研究会を募集**

少人数が基研に集まり共同研究の進展や立ち上げを目指す。
1件50万円以内、国内旅費を補助。開催6週間前まで応募可。
好評につき2022年度は**重力量子情報研究センター**の事業として継続、2件実施済み、1件実施予定。 **随時募集中**

12/7-12/20 Fundamentals in density functional
theory

. 2022年度研究計画（一般共同利用、9月以降）

京都大学の活動制限ガイドラインに応じた開催方法で実施。

11月に2023年度計画を募集予定

- | | |
|----------------|--|
| 9/12-9/16 | 場の理論の新しい計算法2022 -量子計算とテンソルネットワークに関するサマースクール- |
| 9/20-9/22 | 熱場の量子論とその応用 |
| 9/26-9/30 | Quantum Extreme Universe From Quantum Information |
| 10/12-10/14 | 25th Anniversary Symposium of German-Japanese Joint Research Project on Nonequilibrium Statistical Physics Perspectives for Future Collaboration |
| 12/5-12/9 | New frontiers in cosmology with the intrinsic alignments of galaxies |
| 12/21-12/23 | 非自明な電子状態で発現する超伝導現象の新しい潮流 |
| 2023/3/13-3/16 | Japan-France joint seminar "Physics of dense and active disordered materials" |

6. 運営関係

▶ 重力量子情報研究センター（CGPQI）の設置

平成4年概算要求により、物理学と量子情報の分野融合研究の拠点として2022年4月に発足。センター長は教授・高柳 匡。2022年度に特定准教授、特定助教、研究員を採用。

▶ 今後の教員人事方針

学内に機能強化促進制度が設置され、年度計画を女性教員比率、若手教員育成体制、組織再編の実施状況で評価し、（最大年2%の）定員削減率が決定される。女性教員公募や若手教員公募について運営協議会の承認のもとに、採用計画を実行中。

運営関係（続き）

▶ 所長・副所長について

所長 青木 慎也（2021年4月1日より任期2年）

副所長 佐藤 昌利（2022年4月1日より任期1年）

▶ 運営協議会委員 2021年4月1日より任期2年

基研の運営全般（人事、予算など）について決定

早田 次郎（神戸大） 横山 順一（東大）


＜所内＞柴田 大、向山 信治、井岡 邦仁

▶ 共同利用運営委員 2021年4月1日より任期2年

基研研究会、滞在型研究会などの採択と予算配分を決定

諏訪 雄大（東大） 小林 努（立教大）

＜所内＞樽家 篤史



国立天文台 科学戦略委員会報告

2022.09.16 国立天文台科学戦略委員会

国立天文台科学戦略委員会とは？

国立天文台科学戦略委員会規則

第1条 大学共同利用機関法人自然科学研究機構運営会議規程(平成16年自機規程第17号)第9条第2項の規定に基づき、**国立天文台運営会議**(以下「運営会議」という。)**に**、科学戦略委員会(以下「委員会」という。)を置く。

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 **国立天文台の中長期計画**
- 二 **国立天文台の研究基本計画**(マスタープラン)
- 三 **大型装置の共同利用を中心とした運用方針**
(国立天文台科学諮問委員会の所掌分は除く)
- 四 その他、**国立天文台の科学戦略**に関すること

今期(~2022/11)委員 (17名)

台外委員

池田 思朗	統計数理研究所
今田 晋亮	東京大学
大朝由美子	埼玉大学
河野孝太郎	東京大学
新永 浩子	鹿児島大学
高橋慶太郎	熊本大学
田中 雅臣	東北大学 (副委員長)
村山 齊	東京大学

台内委員

井口 聖	アルマプロジェクト (委員長)
大内 正己	科学研究部
都丸 隆行	重力波プロジェクト
藤井 友香	科学研究部
満田 和久	先端技術センター
渡部 潤一	天文情報センター
吉田 道利	副台長 (総務担当)
齋藤 正雄	副台長 (財務担当)
本原顕太郎	研究連携主幹

今期(~2022/11)の 運営会議からの依頼された検討事項

- (1) 国立天文台の中長期計画、及び
- (2) 国立天文台の研究基本計画（マスタープラン）
国立天文台の**将来シンポジウムの開催**、そしてその運営に協力し、日本の天文学の中長期的視点から**国立天文台における中長期でのサイエンスを議論する場をコミュニティに提供**する。そして、国立天文台の中長期的な将来計画の作成もしくはその作成に向けた道筋を決めることを目指す。
- (3) 大型装置の共同利用を中心とした運用方針
大型装置の共同利用を中心とした運用方針に関して(科学諮問委員会が設置されている大型装置を除く)、コミュニティ等からの要望も踏まえ、専門的な検討や特定の調査が必要となる場合、ワーキンググループを設置して対応する。
- (4) その他、国立天文台の科学戦略に関すること
必要に応じ、運営会議および本委員会が適切と考える事項について、審議、提言を行う。



本日の報告内容

- 以下、これまで運営会議に報告してきた内容を皆さんにお知らせします。
- 詳細は科学戦略会議の議事要旨をご覧ください
<https://www.nao.ac.jp/recommend/science-strategy-committee/>

科学戦略委員会における将来計画に関する主な議論

1. 将来計画等を検討する必要性

- ・コミュニティ全体としてどのような計画をやりたいか、意志調整、実施機関の国立天文台へのインプット、国立天文台での実施プロジェクトの選定などについて、何をどうしたら良いのか。

2. 科学戦略委員会の役割

- ・国立天文台の将来シンポジウムの開催、そしてその運営に協力し、日本の天文学の中長期的視点から国立天文台における中長期でのサイエンスを議論する場をコミュニティに提供する。そして、国立天文台の中長期的な将来計画の作成もしくはその作成に向けた道筋を決めることを目指す。

科学戦略委員会における将来計画に関する主な議論

3. 将来計画策定の仕組みとして段階的な3つのコンセプト案（コンセンサスではなく、議論中）

3-1. 天文学のサイエンスロードマップ

- ・天文分野全体でコミュニティから幅広く多様なサイエンスを提案してもらい、優先順位を付けることなく、コミュニティとして議論し整理する。
- ・先のサイエンス動向も考慮し、新しい観測装置・解析手法のための萌芽的研究や技術開発も含める。

3-2. 国立天文台のサイエンスロードマップ

- ・上記「天文学のサイエンスロードマップ」の中で国立天文台の役割に関するもの。現行のものも含めて、様々なものを集めて議論する。
- ・意義、実現性、経費規模なども含めて、ある絞り込みはされる必要はある。
- ・新しい計画を推すだけでなく、何かをやめるコミットをするメカニズムも要るのではないか。
- ・誰が作るかについて、①各コミュニティで信頼される人からなる委員会、②国立天文台がコミュニティの意見を汲みながら天文学全体の利益につながるように決める、③国立天文台で実施する人々も作成に関わる、など、様々な意見。

3-3. 国立天文台の実施計画

- ・現状・将来のリソースを想定して、実施中のものも含めて具体的に進める計画。
- ・どの予算に提案するか、どの段階で誰が決めるのかは、これから議論。
- ・実現性のあるプランにするための境界条件を明確にし、プランを作ってもらうのが建設的。

科学戦略委員会における将来計画に関する主な議論

4. 国立天文台の将来計画シンポジウムの計画と実施

参考：高エネルギー加速器研究機構(KEK)の例

○KEK Roadmap：KEKが追求するサイエンスのガイドライン

- ・ 関連する科学分野の長期的課題を踏まえたKEKの役割
- ・ 技術開発を含むKEKの6分野の今後5年間の目的と計画・期待される成果
- ・ KEKの予算に納めることは要求しないが、分野内の優先付は要請。今後5年間の計画には既存の実施中の計画も含む。

○KEK Project Implementation Plan(PIP)

- ・ KEK roadmapに記載される計画をどの予算で実施するかを記述。
- ・ 予算の種類が優先順位にもなっている。新規予算要求項目については、その中の優先順位が記述されている。

国立天文台将来シンポジウム

- ▶ 2022/12/7, 8 開催予定
- ▶ スコープ
日本の天文学のさらなる発展を目指し、
 - 国立天文台からどのように新しい計画を立案・推進し、
 - 国立天文台が所有する既存の望遠鏡をどのように運営していくのか、などを議論する
- ▶ 皆さんの積極的な参加をお待ちしております。

事務局ローテーション

- 3Nルール

「常勤（任期5年以上）の理論懇スタッフが3N人以上いる研究機関は、一回のローテーション中でN回担当する。

ここでNは零以上の整数。事務局の任期は1年ごとの持ち回りで、10月1日から翌年9月30日までとする。」

- $N \geq 2$ に該当するのは・・・

N=3: 国立天文台科学研究部

N=2: 名大理、東大物理・RESCEU合同、東北大天文、筑波大物理、東大柏(ICRR/IPMU)

ローテーション（確認）

東大天文 → 東大柏（2年） → 弘前大 → KEK → 理研
→ 京大天体核 → 京大宇物 → 東北大天文（2年）
→ 東北大天文（2年） → 名大物理（2年：今ココ）
→ 東大教養 → 京大基研
→ 東大物理・RESCEU合同（2年） → 阪大宇宙進化
→ 国立天文台科学（3年） → 筑波大物理（2年）
→ 千葉大物理 → 東工大物理・地惑 → 東大天文にもどる

理論懇シンポ2022

- 場所: 福島大学 (会場: 「コラッセふくしま」 JR福島駅西口徒歩3分)
- 日程: **2022年12月21(水) – 23日(金)**
- テーマ: 「理論天文学・宇宙物理学の広がり：さらなる発展に向けて」
- 開催趣旨：現在の理論天文学・宇宙物理学では、各分野で専門化が急速かつ複雑に進んでおり、新奇な展開を生み出していくためには、全体を俯瞰的かつ有機的に概観することがより重要になってきている。そこで本シンポジウムでは、理論天文学・宇宙物理学の多岐にわたる分野（重力理論、初期宇宙論、観測的宇宙論、重力波天文学、銀河形成、星惑星形成、高密度天体、宇宙線、超新星爆発、太陽物理学、天体力学など）における第一線の研究者をお招きし、各分野の進展を詳しく解説していただくと共に、これからの展望についてご紹介いただき、発展的な議論を行うことを目的とする。**なお、理論天文学・宇宙物理学の幅広いトピックの口頭講演およびポスター発表も例年通り募集する。また、博士取得見込みの者に優先的に発表の機会を与え、若手発表賞も実施する。**
- LOC: 馬場一晴 (chair)、東北大からヘルプ数名
- SOC: 守屋 堯、馬場 一晴、井上 芳幸、富田 賢吾、仏坂 健太、井上 剛志、小林 努、諏訪 雄大、富永 望、成子 篤、横山 修一郎
- 財源: 理論懇資産、国立天文台研究集会、福島県および福島市からの会議開催補助費

招待講演者リスト(確定)

- 野海俊文 (神戸大)
- 高棹真介 (大阪大学)
- 須藤貴弘 (Ohio State Univ.)
- 草野完也 (名古屋大学)
- 宮武広直 (名古屋大)
- 須藤靖 (東大)
- 鈴木昭宏 (国立天文台)
- 佐藤寿紀 (立教大)
- 西澤篤志 (東大RESCEU)
- 高橋史宜 (東北大)
- 藤井通子 (東京大学)
- 藤井友香 (国立天文台)
- 初田泰之 (立教大)
- 山内大介 (神奈川大)
- 鈴木良拓 (豊田工業大)

開催方針

- **対面を基本として、感染状況を鑑みてオンライン参加のオプション
(体調不良の場合はオンライン講演も可) も用意する予定**
- **懇親会は実施しない予定**

来年度以降

- 基研一本郷—基研—立教—京大（宇物）—天文台
—名古屋—基研—天文台—筑波大—IPMU—天文台
—阪大—東北大—東大—基研—天文台
—名古屋('20)—ICRR+IPMU('21) — 福島大('22)
— 弘前大('23)
- 2024以降も開催地の立候補をお待ちしております。

選挙の予告

10月に以下の選挙を電子投票で行います。

* 投票率が大変低いです。積極的な投票をお願いします！

- 理論懇運営委員 5名
- APCTP委員候補 1名
- 基研運営協議会委員 2名
- 基研共同利用運営委員 2名